これまでの杉コレを振り返り これからの杉コレを考える。グループディスカッション開催

最終選考会終了後、ＪＡ会館に会場を移し、これまでの杉コレを振り返りつつ、これからの杉コレを話し合う、グループディスカッションが開催された。

今回の日向での杉コレクション開催で、県内を一巡したことになり、今後の杉コレクションを検討するには良い機会であった。

グループは、これまで杉コレに携わってきた審査員経験者や行政担当者、実行委員を務める宮崎県木材青壮年会連合会のメンバー（以下・木青会）らによって構成され、それぞれの立場からの杉コレについて様々な意見を交換した。

また、今回のグループディスカッションは一般にも公開され、木青会の会員や、一般の参加者もそれぞれのテーブルを囲んで、生の意見を聞くことができた。

グループごとに、これまでの杉コレを見つめ直す作業から入り、今後の展開を考えるにあたっては、やはり、それぞれの立場により捉え方が異なり実に様々な意見が発表された。

限られた時間内での検討ではなかなかまとまった答えは得られなかったが、今後の方向性を期待する意見や、杉コレの可能性に目を向けた意見。また、抱える問題点に焦点を絞ったもの等、いろいろな視点からの意見を聞くことができ、杉コレの存在の広がりを感じることができた。

最後に審査委員長からの総括を受けグループディスカッションの総括とした。

【内藤審査委員長の総括（要旨）】

杉コレは、まだまだ発展すると思うが、これまでの成果をきちんと見直した方が良いと思います。いろいろな良い物を生み出してきているので、そういったものを、きちんと摘み取りができているかどうか、その先をどうするのかを考えることが大切だと思います。

今、行政が環境問題の観点から、木材をもっと使っていこう、とする動きがありますが、そういった強制的な活動ではなかなか本物の「杉の文化」は育ちません。

杉コレクションは、強制ではなく、真の「杉の文化」を育てるひとつとしての役割を担っていると思います。

杉はとても弱い材料です。弱さを認めつつ、ぶつかっても痛くないとか、転んでもケガしないとかの良い部分もあり、弱いからこそ受け止める力があったり、さわると温かくてなんとなく手触りがいい感触があり、心を和ませてくれる。杉は、その弱さで人の心の中に入って行ける材料だと思います。

大震災以降、今の日本の社会にはそういった弱い物を受け入れて行こうとする思いやりの気持ちがたくさん溢れていると感じます。

この時期に、弱い杉をもっとみなさんに知ってもらうことは、杉コレクションのとても大切な役割ではないでしょうか？

杉コレクション２０１１を終えて

実行委員長　岸本 真幸

今回で、７回目となる「杉コレクション２０１１in日向」日向市駅前広場、内藤廣氏設計の木洩れ日ステージで開催され、盛大の内に終えることが出来ました。テーマに（座）をイメージしたコンパクトな作品が、全国から１１１件の応募があり、一般部門、子供部門での合わせて一〇作品が最終選考に残り、中でも子供グランプリに選ばれた、作者、日向市内小学３年生プレゼンテーションでは、東日本大震災で被災された方々へ思いを伝えたく、（だっこのいす）という作品を考え、純粋な気持ちが、審査員の方々や関係者、来場者に感動を与えました。今回までの、作品応募総数は７１３件となり継続により更なる杉の真価が、発揮できればと思います。

最後に杉コレ審査委員の皆様、応募者、関係者の皆様へ心より感謝いたします。

杉コレクション２０１２に向けて

次期実行委員長　横山 淳二

杉コレクションin日向の関係者の皆様、お疲れさまでした。日向杉コレが大盛況に終わり、次期開催地である我々宮崎に引き継がれました。身が引き締まる思いです。

宮崎での開催は二回目となります。前回は２００５年にフローランテで行われました。青い空に緑の芝の空間に自然に溶け込んでいる杉コレ作品。その時の場面が思い出されてきます。

さて、今回の開催場所の案として商店市街地「ニシタチ」が上がっています。街市、他イベント等が行われ多くの人が集まり賑わいをだしています。その多くの老若男女の方々に触れてもらって杉の暖かさ、癒しを感じてもらいたいと考えています。日向の子ども杉コレのグランプリ作品「だっこのイス」みたいな人と人を繋げる暖かい、また感動が生まれてくる作品が集まってくるテーマを考えています。

我々宮崎木青会が一丸となって頑張って行きます。また、関係者の皆様には来年もご指導、ご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。